

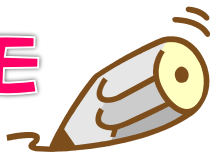
HEROES #19 片山雄貴

3回からマウンドに上がると7回を投げ3安打無失点、毎回の7奪三振を奪う力投でリーグ戦1年ぶりの白星を手にした。ここまで2試合で11回2/3を投げ1失点と抜群の安定感を見せている。昨秋はリーグ戦中盤まで先発を務めていたが不調でマウンドを譲る形となった。「出来れば先発をやりたいが、今は抑えている」と先発への強い思いを明かすとともに自らの仕事をこなすという気持ちも見せた。

1戦目先発の今永昇太(経3)とは同学年で同じ福岡県出身。高校時代は今永の高校があと1勝すれば対戦していたという。意識しているかという質問に対して「同級生としてある」とライバル意識をのぞかせた。だが、寮生活など普段の生活ではよく会話を交わすという。「次の亜大戦は今永の負担を減らすために2戦でしっかりと終わらせたい」と左右の柱で優勝争いに大きく関わる亜大戦に臨む。(山本春熙)

コマスポ記者メモ

～連続完封記録～



これまで拓大1、3回戦、青学大1回戦と3戦連続完封勝ちし、元亜大・東浜巨(現・ソフトバンク)と元東洋大・藤岡貴裕(現・千葉ロッテ)と並ぶリーグ最多完封タイとなった。これは東都史上10人目の快挙。亜大戦を完封勝ちすれば東都リーグ史上初の記録となり、加えて優勝への大きな一歩ともなる。

東浜は1年時の平成21年春の第5カード、それまで勝ち点0でそのシーズン最下位だった立正大1回戦に5回に死球から適時打を打たれ失点。大記録を逃した。

藤岡は3年時である平成22年秋の中央大戦、9回裏にヒットで出塁させると暴投などで進塁を許し、ゴロで失点。あと一歩のところまで抑えきれなかった。

大記録を逃した共通点は隙を突かれたという点にありそうだ。両者試合に勝ちましたが、投手の気持ちの弱さが出た一戦となったことだろう。しかしそれから成長し、全日本・神宮大会で結果を納めドラフト1位の栄光を勝ち取った。4連続完封の壁は東都のエースには避けては通れぬ道なのかもしれない…。

3試合連続完封の軌跡

東浜H21春	回	打者	球数	安打	四死球	三振	自責
4月21日中大1回戦	10	35	130	5	1	8	0
5月5日国学大1回戦	9	34	120	3	4	5	0
5月8日国学大2回戦	9	28	109	3	1	7	0
計	28	97	359	11	6	20	0

藤岡H22春	回	打者	球数	安打	四死球	三振	自責
4月8日立正大2回戦	9	34	139	4	4	13	0
4月14日亜大2回戦	9	32	112	6	1	6	0
4月30日国学大2回戦	9	34	148	4	3	11	0
計	27	100	399	14	8	30	0

今永H26春	回	打者	球数	安打	四死球	三振	自責
4月7日拓大1回戦	9	31	116	3	1	10	0
4月9日拓大3回戦	9	40	170	5	6	1	0
4月15日青学大1回戦	9	33	124	5	1	10	0
計	27	104	410	13	8	21	0

☆☆☆?

史上初の

4試合連続完封

なるか・・・?!

